

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	みやぎけんせんだいにちかちゅうがっこう・こうとうがっこう				②所在都道府県	宮城県
26～30	①学校名	宮城県仙台二華中学校・高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	計	総計	全校生徒を対象に実施 (平成25年度より中学校の入学者は105名)	
中学校	105	80	80	265	985		
高等学校 (普通科)	240	242	238	720			
⑥研究開発構想名	北上川、メコン川をフィールドとした世界の水問題解決への取組						
⑦研究開発の概要	<p>グローバル・リーダーに必要な適切な世界観、本質を見抜く力、共感する力、構想力、自己を相対化する力の五つの資質・能力を身につけるため、以下の取り組みを行う。</p> <p>ア 「世界の水問題」に関する<b>課題研究</b></p> <p>イ 北上川とメコン川をフィールドとした<b>調査・研究</b></p> <p>ウ 自律的な学習集団を形成し、多様な人びととの様々な<b>言語活動</b></p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>グローバル・リーダーの育成に資する課題研究を中心とした教育課程の研究開発と、課題解決に向けた国内外におけるフィールドワークや研究成果の発表を行う中で、</p> <p>I 連携先となる大学、国際機関、NPOなどの各種法人、NGO、民間企業など各種人的リソースの開拓を行い、校外との有機的な<b>人的ネットワークを構築</b>する。</p> <p>II 生徒の多面的な成長と変容を測る<b>新たな指導と評価の方法に関する研究</b>を行い、もって授業の改善に資する。</p> <p>III 他のSGH、SSH指定校のみならず、日本国内外の各学校とも広く<b>成果を共有</b>する。</p> <p>上記I～IIIの目的達成のため、指定期間中に以下の目標を設定する。</p> <p>I 課題研究において継続的に指導していただく大学の教員・学生の人数を20人、留学生の人数を20人、フィールドワークの際に協力していただく国内外の機関の数を20機関とする。</p> <p>II 課題研究の中で、<b>ケースブック・メソッド (Casebook Method)</b> や多様な言語活動を積極的にを行い、その効果について数値で検証できるようにする。</p> <p>III 生徒の課題研究の成果の発表については海外で5回、学校の研究成果の発表については国内外(校外)で5回とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>平成22年度の開校以来、本校では、真に国際社会に通じるグローバル・リーダーの育成を目標に、中高で2度にわたる海外研修や、毎年行っている姉妹校交流などの特色ある教育活動を展開してきた。また、「地球環境」を学校の探究テーマに、主に総合的な学習の時間を用いて「<b>世界の水問題</b>」について北上川や八幡平をフィールドに学習を深めてきた。しかし、時間数の制約、資金や人的資源の不足から、課題研究には至らず、「世界の水問題」の紹介に終始している。そこで、</p> <p>I 現実には、世界が直面する深刻な社会問題の解決に正面から取り組むこと</p> <p>II 水問題を抱える世界の現場で、困難を抱えている人々との直接の対話を踏まえて深く考察を重ねること</p> <p>III 自律的な学習集団を形成し、多様な人びとと模擬国連やケースブックスタディなどの様々な言語活動を行うこと</p> <p>で、グローバル・リーダーに必要な五つの資質・能力が身につくという仮説を立てた。</p> <p>(3) 成果の普及</p>					

		<p>① 研究開発成果 ア 研究成果報告書の作成 イ 公開研究会 ウ ホームページに定期的に公開</p> <p>② 生徒の課題研究の成果 ア 校内発表会 イ 文化祭 ウ 他校 S G H, S S H 指定校の発表会への参加 エ 海外の連携する高校, 大学, 研究機関での発表 オ 国際機関, 国際会議への提言 (最終目標)</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>		<p>(1) 課題研究内容 次世代のリーダーとなる者が避けては通れない課題である「世界の水問題」について、従来の北上川に加えてメコン川をフィールドとして課題研究を行う。「世界の水問題」を「人間」、「経済」、「環境破壊・災害」の三つの視点から分析し、実際に水問題を解決する方法を探究する。例としては、「発展途上国において、きれいな水で手を洗えないときの感染症予防対策はないのか?」(人間)、「中国などのメコン川上流におけるダム建設は本当に下流域の国の水不足の原因となっているか?」(経済)、「マングローブ林の伐採により失われたものは?」(環境破壊・災害)などが挙げられる。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 連携先の東北大学の教員・学生や独立行政法人国際協力機構 (JICA) から、継続的に直接生徒の課題研究の指導にあたっていただく。また、東北工業大学/JICA の現地事務所の支援を受けながら、北上川とメコン川流域の地域においても精力的に調査・研究を行う。将来的には、現地の高校, 大学, 専門家, 民間企業, 国際機関などとも連携し、総括的な水問題の理解と実践的な解決策の提案を行いたい。平成 26 年度については、タイとカンボジアを中心に安全確認, 課題のタネ発見, 教材作成, 資料収集にあたる。得られた成果は、現地の高校生や専門家とも共有し、最終的には国際機関による援助に採用されることを期待している。 適宜、ケースブック・メソッドを用いた授業を行い理解の整理・深化・共有を図る。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「総合的な学習の時間」3 単位と「社会と情報」2 単位を「課題研究 I」3 単位, 「課題研究 II A」3 単位で代替する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 課題研究の中で、模擬国連やケースブック・メソッドを用いた授業や多様な言語活動を積極的に行い、その効果について数値で検証できるようにする。併せて、教科学習において身に付けた基礎的・基本的な技能や知識・理解を課題研究において活用し、課題研究で身に付けた総合的な思考力・判断力や課題解決に向かう態度が教科学習の一層の活性化につながるよう指導方法を工夫する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の実施内容・実施方法 ① 連携先である東北大学が主催する外国人留学生との共修プログラムに東北大生とともに参加。 ② 高校生のための模擬国連 (Global Classroom) への参加</p> <p>(4) 幹事校としての取組 (該当する場合のみ記入) 特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>特になし</p>

ふりがな	みやぎけんせんだいにちゆうがっこう・こうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	宮城県仙台二華中学校・高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)	
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	60	人
	SGH対象生徒以外:		- 人	20 人	人	人	人		人
目標設定の考え方: 現在はボランティア活動で各クラス1名程度、目標値は課題研究取組後、学校以外で各学年20名程度3学年分を設定。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20	人
	SGH対象生徒以外:		10 人	10 人	人	人	人		人
目標設定の考え方: 高校2学年実施の海外研修(全員)を除く。目標値は、SGHの海外フィールドワーク以外に個人で参加する者の数。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	40	%
	SGH対象生徒以外:		- %	20 %	%	%	%		%
目標設定の考え方: 目標値は、海外の大学への進学希望者と国内大学在学中に1年程度の留学を希望する者の割合。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	8	人
	SGH対象生徒以外:		- 人	0 人	人	人	人		人
目標設定の考え方: 英語スピーチコンテスト、英語ディベートコンテスト、模擬国連等を想定し、全国大会の入賞者数。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80	%
	SGH対象生徒以外:		65 %	65 %	%	%	%		%
目標設定の考え方: B1レベルを英検2級程度と考え、現在の英検2級取得者とセンター試験平均点からの予測。またGTECも生徒の英語力を測定する手段とする。									
将来リーダーシップを発揮できる仕事に就き活躍したいと考える生徒の割合									
f	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	25	%
	SGH対象生徒以外:		%	10 %	%	%	%		%
目標設定の考え方: 価値観や世界観の異なる人たちと共生できるしなやかさを持ち、自分のリーダー性に気づき、磨くことができる生徒の割合。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	30 %
	SGH対象生徒以外:	10 %	10 %	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 対象大学をグローバル30の13大学(東京大学、京都大学、東北大学、早稲田大学、慶應大学等)に絞り、追跡調査を行う。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	6 人
	SGH対象生徒以外:	0 人	0 人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 今後、海外大学への進学指導や海外大学と連携しフィールドワーク等を実施後に、希望する者の数。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	95 %
	SGH対象生徒以外:	- %	- %	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究における生徒各自の設定テーマを文系や理系に偏らせることがないため、ほとんどの生徒が該当することが予想される。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30 人
	SGH対象生徒以外:	- 人	- 人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外大学への進学指導も充実させるため刺激される生徒が増え、国内大学進学後も数は伸びることが予想される。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	- 人	0 人	人	人	人	人	人	15 人
目標設定の考え方: 高校2年次で課題研究を選択する40名の中から選抜し、毎年15名を海外フィールドワークに連れて行く予定。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	- 人	0 人	人	人	人	人	人	280 人
目標設定の考え方: 高校1学年は240人全員を対象として国内の大学や企業を中心に課題研究を行い、高校2学年は希望者40人程度が課題研究に取り組む。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	- 校	0 校	校	校	校	校	校	5 校
目標設定の考え方: 現在は姉妹校交流先のデラウェア州の高校1校であるが、フィールドワーク等で現地の大学とも連携する予定。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	- 人	- 人	人	人	人	人	人	80 人
高校1学年課題研究の指導8ジャンル×4回と全体講演会8回、高校2学年課題研究の指導8ジャンル×4回と全体講演会8回になる予定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	- 人	- 人	人	人	人	人	人	12 人
目標設定の考え方: 高校1学年課題研究の指導1ジャンル×4回と全体講演会2回、高校2学年課題研究の指導1ジャンル4回と全体講演会2回になる予定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0 人	2 人	人	人	人	人	人	20 人
目標設定の考え方: 模擬国連、英語スピーチコンテスト、英語ディベートコンテスト等に参加する生徒、各学年10人で、1・2年生。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	10 人	10 人	人	人	人	人	人	30 人
目標設定の考え方: 課題研究のフィールドワークを行う生徒15名と同程度の生徒、及び姉妹校交流先より15名程度を短期・中期で受け入れる。								
先進校としての研究発表回数								
h	1 回	1 回	回	回	回	回	回	2 回
目標設定の考え方: 生徒の課題研究の発表会を中心としたものを1回、教員の研究開発の公開を1回設定する。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	△						○
目標設定の考え方: 平成25年度に英語のホームページが一部整備されている、が今後生徒の研究成果等を更新できるものにする。								
将来リーダーシップを発揮できる仕事に就き活躍したいと考える生徒の数								
j		100 人						200 人
目標設定の考え方: 価値観や世界観の異なる人たちと共生できるしなやかさを持ち、自分のリーダー性に気づき、磨くことができる生徒の数(高校1～3年)。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	240	240	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							